令和５年度　第１回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日　時　令和５年６月１２日（月）午前１０時～
蒲郡市役所　北棟集会室

１　開会
事務局より、配布資料の確認、会議及び委員委嘱について説明、委員自己紹介

２　議題
（１）会長・副会長の選任について
会長について、立候補または推薦により、吉村委員が推薦され、選任された。
副会長について、会長から金子委員が指名された。
会長より、第４回議事録の承認

（２）協働のまちづくり推進事業について
事務局より、まちづくり事業助成金制度、協働モデル事業、協働のまちづくりの指針について説明

・協働事業について、行政に求めるのではなく、自ら動いていくことを多様な視点、論点を踏まえて検討していく必要がある。
コロナ禍だからできたことも多くあり、戻るのではなく、これからのやり方を考えていきたい。
・助成金事業について、やれる人、思いのある人を探し働きかけをするなど、アウトリーチすべきではないか。
・モデル事業について、過去にとらわれず、今何をすべきか、何が必要かを考え、時代に即したことに取組んでほしい。
・地区防災計画作成のモデル事業については、避難所運営マニュアルの作成等、知ってて蒲郡が中心となり実施したもの。
・協働の推進には、様々な機会できっかけが生まれ、そこに合う人、関係する人をつないでいくことが大事ではないか。
・助成金制度の見直しに関して、同一事業の考え方として、同一団体が事業継承した場合はどうなるのか。
・蒲郡は各地域に日本語教室があるが、他市では珍しく、持続可能なものとしていきたいと考えている。後を継ぐ若者がいない現状において関係者等に声掛けをしているが、同じ思いの人を探す難しさを感じている。
・日本語教室をボランティアが運営している従来の仕組みを考えていく中で、地域の中の持続の目を摘んでいくためにどんな応援が必要なのかを考える必要性を感じている。
・活動しようとしている人は市に連絡しないことがほとんどではないか。
やりたいことがある人は、地域を巻き込むなど、助成金をもらわなくてもやっている。
例えば、困っていることがあれば相談できるとか、自然発生的な活動に対して行政として何ができるかを考えることが必要ではないか。

・お金の面だけでなく、ルールを緩やかにすることや他分野との連携を図ることなど、従来とは違う支援の方法についても検討が必要ではないか。
・行政との関わりよりも大学や地域、企業との関わりを求める動きも出てきているが、行政と関わることにより違う視野、視点を知ることができる利点もあると感じている。
・協働の推進は助成金利用団体の数で測れるものではないため、行政が見えないところでの他分野のつながりや事業の発展など、数以外で評価できる基準があるとよい。
・そういった今見えていない部分を見える化することも必要ではないか。

（３）令和５年度協働まちづくり事業について
事務局より、令和５年度協働まちづくり事業について説明

・個別の事業については委員へ適宜伝えることと併せて、委員の活動や情報も適宜共有できるとよい。
・多文化共生事業について、愛知県では防災について要支援者ごとに進められており、外国人についても説明会等が行われているが、蒲郡市は健康づくりに比べ防災の取組みが進んでいない。
・多文化共生には様々な切り口があり、それぞれ丁寧に進めて行く必要があるが、自分ごととして取り組めるような進め方をしてほしい。
・助成金について、面倒な手続きはあるが、色々な団体と知り合えたことはプラスになった。従来のやり方を続けるのではなく、動かしていく必要がある。
・モデル事業は、やって終わりではなく、結果を残し次につなげていくことを考えて進めるべきではないか。
・将来のまちの担い手づくりには、子どもたちに蒲郡の魅力を伝えることが大事だと感じている。
・つながりの最初の接点をどう作るかが大事で、助成金事業の報告会のようなものではなく、あの人に会える、話ができるという機会づくりが必要ではないか。
・若者議会に関わった若者のように、動こうとしている人たちがつながる接点、機会を多く作っていくことが求められる。
・助成金制度の見直しと併せて、組み合わせで行なう新たな展開を議論していきたい。

３　その他
今年度の会議予定について
令和５年度は全４回、次回以降は、８月下旬、１１月下旬、２月下旬頃を予定。